

第3期 平成29年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第3回暮らし部会 議事概要

日 時 平成29年9月1日（金）9:30～11:30

場 所 区役所本庁舎3F 302会議室

出席委員 川村委員、郭委員、長谷部委員、余委員、センブ委員、鈴木委員、金（朋）委員、
安藤委員、井上委員、本多委員 10名

欠席委員 小野委員、丁委員、バーバー委員、梶村委員、ファトマワティ委員、森田委員
6名

1 開会

2 今後の審議スケジュール

事務局から審議スケジュール（案）について説明があった。

3 暮らしに関する課題解決のための具体策の個別検討

【新宿生活スタートブックの改訂】

- ・ 来日したばかりの外国人は日本語がわからないだけでなく、ごみを決められた曜日に出すことや分別することを知らないので、先に来日した同国人の先輩が教えてあげると良い。
- ・ ごみは完全に捨ててしまうものではなくて、なかにはリサイクルすることで、使えるものに生まれ変わるものがあることをイメージさせたい。
- ・ なぜ分別する必要があるのかを、写真やイラストで表すと伝わりやすい。
- ・ 先輩からのアドバイスという形は、好感が持てる。外国人も自分と同じ立場の人からのアドバイスだと親しみやすいのではないかと。もったいない精神と文中にあるが、日本的で伝わりにくいいため、地球の環境を守るためという切り口の方が良い。
- ・ エコ博士検定をやって、上級の子に憧れて自分もやってみる子が出てくるような継続的な取組みはどうか。多文化防災フェスタのスタンプラリーも子ども向けに改良してはどうか。
- ・ ごみのことは、子どもの頃から楽しんで興味を持ちながら学ぶと自然に身に付く。
- ・ 子どもにはマスコットやスタンプラリーなど楽しめる工夫をすることで、そういったものには魅かれられない年齢、新宿区に多い留学生のような若者世代にはどうアプローチするか。
- ・ 若者世代は受け身で学ぶのではなく、子どもたちに教えるスタッフ側として巻き込んでいくのはどうか。
- ・ イベント等で留学生にごみの分別について話してもらおうと日本語の勉強にもなって良い。

- ・ごみの勉強をした留学生には、証明書のようなものを発行すると就職の時にプラスになる。
- ・スピーチが難しい留学生もいるので、エコをテーマに川柳を募集するのはどうか。
- ・実際に体験してみると理解が深まる。ごみの分別やエコに関する体験コーナー作れないか。
また、自分は子どもが学校からごみの分別を習ってきて、教えてもらった。子どもと大人と一緒に学べる場があると良い。
- ・ごみのルールを守れるかは年齢より、日本生活の長さによる。来日したばかりの時にどれだけ正しい方法を習慣づけられるかが大切なので、区内日本語学校から浸透させたい。
- ・粗大ごみ受付センターの問答はパターンが決まっているので、吹き出しの会話形式で掲載できると良い。なぜリサイクルが必要なのかも会話形式でWEB上に掲載してはどうか。
- ・留学生から「家庭ごみは分別が必要なのに、自販機で飲み物を買って飲んだ後は横のごみ箱にはそのまま洗わず、分別せず捨てていいのはなぜか」と聞かれた。外国人の自分も疑問に思う。
- ・外国人のためにだけ資料を作るのではなく、全体で共通して使えるものを用意して、必要に応じて多言語化する方針にしなければならない。日本人側のルール・マナーが悪くなる。
- ・洗って出すカン・ビン・ペットボトルは、イメージがつくよう蛇口のイラストが欲しい。
- ・文字は一切使わず、洗って、蓋を外して、分けて出す、リサイクルした結果何ができる、という一連の流れをイラストのみで表せば、誰にでも伝わるのではないか。
- ・外国人に伝えるには翻訳だけでなく、文化の違いにも配慮しなければならないのが難しいところ。シンプルにルールを守って一緒に仲良く暮らそうというメッセージを出せないか。
- ・P. 43-44の「日本で初めて住むとき気をつけること」で総論として日本の環境への考え方を述べ、そこからごみの分別とリサイクルの記述へとつなげてはどうか。
- ・もったいない精神やリサイクルの視点は良いが、ごみは出した人の責任で、回収時に問題ないようきちんと出すという気持ちを持ってもらいたい。騒音に関しては大勢で集まるのが問題なのではなく騒ぐのが問題で、どの程度の音なら出していいのかイメージできると良い。
- ・イラストを見ると、やっていいことなのか悪いことなのか読み取りにくい。×印つけるか。
- ・パーティーをすることは音が大きくなればOKであるし、ペットも許可があればOKなので、イラストに禁止事項として×印をつけるのは正しい情報ではない。あまり×印ばかりになると細かいルールブックになってしまうので、イラストは柔らかい方が良い。
- ・日本語学校では自転車譲渡時の手続きは忘れないよう学生に徹底している。登録の名義変

更についても記載した方が良いのではないか。

- P.24「安全ルールを守る」の安全ルールとは何か。また、そのルールは努力義務なのか罰則規定なのか、罰金がある場合は書いてあった方が親切である。
- 法的に正しい知識を持ってもらうことは大切だが、自転車ルールは運用実態として違う場合が散見される。あまり細かくしすぎてしまうと読まれなくなってしまうため注意したい。
- 声のトーンは言語によって異なるため、悪いとは言えないし、お互い気をつけましょうとしか言えない。
- 何を問題と捉えるのかは、文化の違いや個人の差が大きいので、日本では騒音がトラブルにつながりやすいということを書いてはどうか。また、外国人が騒音を起こす側と想定された文章しかないが、逆に騒音トラブルに巻き込まれたとき、相談先がわからない。
- 自分と違う言語の話し声は、内容がわからないから不安に感じてしまう。

【国際交流サロンの見直し】

- テーマを設けることが必要なのではないか。
- 外国人はメリットがなければ交流の場には来ない。
- 「国際交流」は日本人側の視点であって、外国である日本で暮らす外国人にとっては興味を持ちにくい。

4 その他

事務局から次回の会議について説明があった。

5 閉会